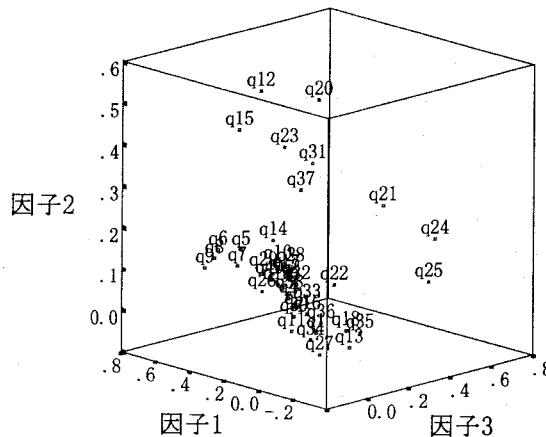


表17 因子分析 (主因子法 VARIMAX 回転) VARIMAX Rotated Factor Patten:

	Factor 1	Factor 2	Factor 3		Factor 1	Factor 2	Factor 3
Q1	-.04676	.01154	.03770	Q21	-.00153	.26798	.39871
Q2	-.09936	.12515	.03740	Q22	-.05232	.11784	.12081
Q3	.02265	.06775	-.01160	Q23	.24162	.41434	.12143
Q4	.15520	.06936	.06702	Q24	.07129	.13677	.71581
Q5	.31651	.17707	-.02712	Q25	.12178	.02504	.72762
Q6	.53325	.14520	.04214	Q26	.30439	.06787	.06508
Q7	.43413	.11771	.05240	Q27	-.20641	-.00913	-.07632
Q8	.56633	.11950	.05218	Q28	.17522	.13827	.09792
Q9	.56138	.10325	.00380	Q29	.27215	.12390	.04717
Q10	.10606	.16884	-.02268	Q30	.14407	.02265	.08641
Q11	.04537	.01063	-.00239	Q31	.14831	.38104	.17878
Q12	.29519	.55552	.04556	Q32	.12883	.09932	.09031
Q13	-.05788	-.04361	.18921	Q33	.02807	.07209	.05823
Q14	.18459	.21161	.01770	Q34	.03280	-.02126	.07930
Q15	.36551	.45817	.00003	Q35	-.02159	-.02327	.27622
Q16	.10883	.02793	.12141	Q36	-.06908	.03666	.04544
Q17	.09766	.14014	.01178	Q37	.08377	.33700	.06637
Q18	-.03750	-.00539	.19387	Q38	.09864	.09150	.03021
Q19	.24464	.08745	.09480	Q39	.17324	.09394	.06913
Q20	.05425	.55234	.12795	Q40	.13332	.13141	-.04321

Kaiser-Meyer-Olkin Measure of Sampling Adequacy = .85732
 Bartlett Test of Sphericity =9239.4014
 Significance = .00000

図7 回転後の因子空間の因子プロット



回転後の因子負荷量行列の三つの因子を図7の3次元空間上に示している。このように、人々の職業生活意識の中で、具体的な意識構造を持つものとして「職務権限」、「能力発揮」、「人間関係」が存在している。すなわち職業生活意識は「職務権限」、「能力発揮」、「人間関係」という三つの軸に大きく分けることができる。回転後の因子プロットによる軸の解釈においては、第1因子と第3因子との空間位置は相対的に離れたところ（第1因子と第3因子の相関係数は-.00126のマイナス相関である）、あるいは少し対立したところにあることがわかる。もし「人間関係」に伝統的要素が含まれると理解すれば、近代的な官僚制と対

立する面にあるかいなかをともかくして、少なくとも人々の意識構造にこのような異質的なものが反映されている。マックス・ウェーバーの支配社会学における官僚制の理念型によれば、合理的官僚制の一般的特性は、その権限ヒエラルヒーにある。また、近代の組織論においては、ホーソン実験によってインフォーマル集団の存在が明らかにされた。すなわち近代組織論はフォーマル組織とインフォーマル組織とを組織の存在要素としてシステマ的にとらえている。しかし、人間関係重視する現代中国の方は一つの異質的な特徴を持っているようである。この点について、今回の質問の中では、「この会社に入るようになった経路」と